

尾形尚子基金レクチャー報告

中島 信博

東北大学大学院教育学研究科

2008年はオリンピック・イヤーでもあり、来日しておられた陸小聰氏（上海大学人文院社会学部教授）をお招きしてレクチャーをもっていた。「教育研究の理論Ⅲ」の時間を借り、「中国の発展とスポーツの開放政策」と題したお話しは、学部学生も関心をもって聞き入っていたと思われる。

氏は「スポーツ社会学」を担当しておられることもあって、中国のスポーツ政策を史的にたどりながらも、いわゆる社会的な背景についてやさしく説いていかれた。

さらには、こうしたマクロな政策レベルでの中国の変化もさりながら、氏ご自身の体験談も学生達の興味を惹いていた。なかでも小学校5年生から青少年体育学校で卓球に打ち込み、上海の代表選手であったことや、20歳以降は勉学へと転身したという履歴は、文化大革命やその後の改革開放を具体的に知る貴重な機会となったであろう。

陸小聰氏より、当日のレクチャーの内容をもとにした論文を寄せていただいた。以下に掲載する。